

青少年むらやま

第42号
2024年
令和6年2月20日

提言



朝日町青少年育成町民会議 会長 遠藤 康男

「卑怯」のことは 復活させよう

令和5年12月、住友生命保険が今年を振り返る「創作四字熟語」を発表した。電光石火が「電高節夏」、完全制覇が「冠占聡覇（藤井聡太氏が将棋八冠制覇）」等、なるほどと感心させられた。さて、日常会話でいまや当たり前のように使われている言葉に違和感を持ってしまふ。「ヤバイ」の頻発と「めちゃくちゃ」の連発である。ある食レポの番組で、「ヤバイ、ヤバイ、めちゃくちゃ（めっちゃ）おいしい」が1分間に6回も聞こえてきた。「ヤバイとは何事か。毒でも混入されているのか」と思わず声が出る。めちゃくちゃ（滅茶苦茶の意味はまったくひどい状態）おいしいとは、おいしいのか？まずいのか？どっちなんだ。

なぜこんな表現になるのだろうか。不愉快になってしまふ。「大人が変われば子どもが変わる」と言われて久しい。大人がこのような言葉におかしいと思わないことがおかしいのである。今こそ「大人が変われば子どもが変わる」実践を、「ことば」から始めよう。

ぜひ復活させてほしいことばがある。「卑怯」のことばである。「卑怯なことばをするな。卑怯者になるな。卑怯な生き方をするな」と言われたことを思い出す。将棋で王の逃げ道に待ち伏せの駒を張ることは、「卑怯だ」と言われたことがある。将棋の世界では「しぼり」といい、禁じ手ではないが逃げ道を塞ぐのは卑怯なことと言われた。

かつて、夏の甲子園高校野球大会で、星稜高校松井秀喜選手は対戦チームから5打席連続敬遠された。ルール違反ではないがこれこそ卑怯な行為であろう。結果的には相手チームが勝利したが、山形県で開催された秋の国体には星稜高校が選出され、対戦高校は選出されなかったようだ。当然の結果だろう。

12月下旬、中学校で朝のあいさつ運動を行った。寒いみぞれの中で元気にあいさつしてくれた中学生。「卑怯な生き方はしないでほしい」と願わずにはいられなかった。



“いじめ・非行をなくそう” やまがた県民運動

令和5年度
村山地区
優秀標語

最優秀

その文章 スマホの向こうで 泣いてるよ
河北町立河北中学校3年 太田 琴海さん

優秀

わすれない やさしいきもち あいてのきもち
中山町立長崎小学校1年 西塚 結望さん

悪口は 言うのも聞くのも だいきらい
寒河江市立柴橋小学校3年 加藤 遥さん

わるぐちは いわないきかない ひろげない
尾花沢市立福原小学校1年 渡辺 愛叶さん

分らない いじめといじりの 境界線
山辺町立山辺中学校3年 渡邊 果歩さん

もう一歩 寄り添う心 認める心
尾花沢市立尾花沢中学校2年 安達祐太朗さん

よりそって そっときいてね ころのこえ
山形県立楯岡特別支援学校小3年 堀江 芽衣さん

「いじめ防止」標語 村山地区最優秀賞 河北中学校3年 太田琴海さんのコメント

◆どんな思いでこの作品を創ったの？

SNSを通してやり取りする投稿の誰かにあてた文章は相手の顔が見えないものである。時には軽い気持ちで書いた文章が、解釈のずれから相手に深く突き刺さって傷つけてしまうことがある。自分たちの生活の中でもそのことで苦しんでいる友達を見かけたことがある。また、自分もそうなるのではないかという不安もある。SNSを利用するときは相手の顔を思い浮かべ、慎重に投稿することが大切であることをみんなで考えていきたいと思ひ、この作品を創った。これからも友達との相談を温かく聞いてあげられるような生き方をしていきたい。

新たなポスター掲示も

今年度新たに、いじめ防止村山地区選出標語ポスターをJR山形駅、北山形駅、蔵王駅、かみのやま温泉駅、天童駅、さくらんぼ東根駅、村山駅、大石田駅、寒河江駅、左沢駅の10駅と、イオンモール天童、山形南、イオン東根店、山形北店に掲示していただきました。



JR村山駅改札口



村山地区青少年育成推進員部会研修会より 青少年の社会に対する考えや意見、未来への希望を聞く

仮面

河北町立河北中学校 3年 遠藤 陽向



私は仮面をかぶって自分の顔を隠しています。あなたははどうですか？

昨年一二月、九年間所属しているダンスサークルの発表会がありました。曲選びも振り付けも全て自由なフリーダンス、どうしようかわくわくして臨みました。憧れの先輩方は、軽やかなしなやかさ、女性らしさ、宇宙人のような動き……様々なスタイルで魅力的なダンスを工夫しています。私の持ち味は元気さ。はつきりしたパワフルな動きと表情、特に満面の笑顔が武器です。しかし、練習を重ねながらも先輩たちと比較し、自信が持てない毎日でした。そんな中迎えた発表会。緊張と大きな不安を抱いてステージに上がった瞬間、溢れんばかりの歓声が私を包みました。笑顔が咲く観客席。ここにいる全員が私のダンスを楽しみにしてくれている……あんなに渦巻いていた不安が一瞬で晴れたのです。声援が、笑顔が、割れんばかりの拍手が心地よくて楽しくて、終わりが来なければいいとすら感じました。どんなダンスにも歓声を上げ、声援し、盛り上がる会場。その人らしさのぶつかり合いと、それをみんなが認め合っている雰囲気、大きな高揚を感じました。そして発表会後サークルの先生にかけられた印象的な言葉。「ひなちゃんらしさがすごく出ていて良かったよ。個性ってとっても大事だから、これからもそれを忘れないでね！」私は改めて個性の面白さと煌めき、それを認め合う幸せを体感したのです。

一方、学校では？と問えば、個性を隠して生活していると言わざるを得ません。生徒会副会長。周りからは真面目な優等生と思われているのでしょうか。「期待に応えなければ、イメージを壊したくない。」さらには「嫌われたくない、みんなに好かれたい。」という臆病な心も本当の私をがんじがらめにします。周りの顔を窺い度する私、言わないほうが角が立たないと思ひ黙る私、面倒な人間関係は見えないようにする私。距離をとって安全地帯に逃げ込み、私らしさという個性に仮面をかぶって生活しているのです。そこにダンスで個性を爆発させていた私はいません。全ては自分が傷つきたくない弱さから……きつと私だけではなく多くの人が仮面をかぶっているのかもしれない。

今の社会は多様性が重視されています。多様性と聞くと、障害を持っている人やLGBTなど、言葉は悪いのですが、いわゆる普通ではない特別な人を思い浮かべてしまうのではないのでしょうか。しかし、一人の普通の人間である私も、一つの個性の持ち主です。世界の全ての人それぞれ個性を認め合い、自分らしさを好きになれるつながりが、本当の意味での多様性だと思います。みなが異なるからこそ、私たちは互いに助け合うことができ、新しいアイデアを生み出せるのではないのでしょうか。だから、私たち一人ひとりの個性が社会には必ず意味があり、不可欠なのだと考えます。私のかぶった仮面。まだすぐには外すことができません。でも一方的に自分の個性をおつけることが正解だとも今は思いません。これからは、相手を尊重しながら周りの人に誠実に寄り添うこと、自分の意見を一方的・感情的にならずに交わすことを意識していきたいです。個性を輝かせるには他の個性を認めることが土台となります。だから勇気を持って時には仮面を外して向き合いたいです。勇気を持って仮面を外して受け止めます。必ずあなたの個性が光になります。

私が仮面を外すための行動は小さな一歩です。しかし、それを足がかりにして広がっていくことが私の私への革命であり発信なのです。

信じ続けること

河北町立河北中学校 3年 齋藤 樹



「このままじゃだめだ……。」
レース後の水面の煌めきとは裏腹に僕の心は暗く濁った沼のようだった。興味だけで入ったカヌー部だったが全中で活躍できることを夢見て一生懸命練習をした。しかし、一年の夏、全国大会を決める記録会で、同じ練習をしてきたライバルに一七秒もの大差。ましてや女子にまで負ける散々な有様だった。「どうしてこれしかできないんだ？才能なんてないんだ。一もはや悔しさを通り越して自分に呆れたほどだった。そんな時に顧問の先生から言われた言葉が、折れた心の支えになった。「一つのことを信じ続ければいつか結果が実る日が来る。」

「信じる」こと。まずは憧れであり目標としていた先輩の漕ぎをひたすら真似ることで速くなると信じた。徐々に速くなったが、まだまだ満足いかなかった。二年になった。先輩の引退を機に今までの漕ぎを土台に我流の漕ぎを加えていく決意をした。死に物狂いで漕ぎ方の研究をした。パドルの角度、漕ぐスピード、ストロークでとる水の重さ、バランス。本物の我流を極めれば速さにつながるかと信じていた。自分がいかに速くなるかだけが全てで、他のことは無関心だった。部活の問題点を話し合ったときも「心底どうでもいい。」と無意識に答えていた。みんな唖然としていた。ただただ自分だけを信じる毎日、タイムは縮んでいった。

中学生最後の年。ある日、一年生から漕ぎ方を聞かれた友人が的確にアドバイスする姿を見た。意識して周りを見ると、教えあったり、最上級生として部活のあり方を話し合ったりしている。それぞれが工夫しながら自分を磨き、お互いを気遣いながらも厳しくチームを作り上げようとする仲間の存在に気付いた。そして、あんな発言をした自己中心的な僕にも、全員が変わらず信じて協力し励ましてくれていたことも。これまでの日々と仲間の笑顔が脳裏に浮かんだ。一人でここまで来たのではない、チームの一員として信じて支えられていたからこそ強さだったのだ。打ちのめされるような衝撃と同時に一気に視野が広がる感覚を覚えた。仲間を信じて進もう。それから積み重ねた日々、全国大会では個人とペアで二位の結果だった。純粹にうれしい気持ちと、ここまで「信じて」やってきたことが間違いではなかった証、自分とそして仲間が誇らしかった。

僕にとっての「信じる力」。それは他人が言ったことや価値観、数多ある情報に振り回されることなく、自分はこれだいいと思える力です。その上で目標を持ち、信じられる自分のためひたすら自分磨きを続ける強さも必要です。さらにカヌーを通じて僕が得たもの。それは、同じ目標を持ち努力する、お互いに「信じられる仲間」がいることの幸せです。自分だけを信じていた点が、仲間と線になり面になり「信じる」を形作っていく喜び、感動と共に……。
カヌーでは僕よりもっと上がいます。まだ自分も速くなる可能性があるはず、いつかどこかで強くになれるか、好奇心がうずまきます。もちろん高校でもカヌーを続け、目標はオリンピック。そのためにも「信じられる自分」を磨き、共に進む仲間と「信じ合い」それを大切に積み重ねることで「信じる力」を確実な形にしていきたいと思えます。それが僕をさらに強くすると信じて。

山形市 青少年指導センターと 青少年育成市民会議の活動

令和5年10月29日(日)に山形市青少年指導センター創立60周年・山形市青少年育成市民会議創立50周年記念式典を山形国際ホテルにおいて開催しました。

記念式典では、青少年健全育成活動および非行防止活動に永年ご尽力されている19名の方に感謝状を贈呈しました。また、近年、闇バイト犯罪やネット書き込みによる誹謗中傷が増加していることから、デジタル犯罪に詳しい一般社団法人スクールポリス理事の佐々木成三氏より「子どもがSNSから巻き込まれる犯罪について」と題し記念講演をしていただきました。インターネット犯罪から子どもたちを守るため、まずは大人が勉強すること、情報を精査する「直観力を磨くこと」が大切だと教えていただき盛会のうちに終了しました。

その他の活動としては、無施錠の自転車盗難被害が増加したことから、高校生ボランティアの方16名と啓発物のポケットティッシュを配りながら自転車の施錠を呼びかけました。

現在の課題に沿った事業ができるよう、事業目的を再確認しながら、青少年健全育成のため活動を続けていきたいと考えております。



河北町 どんがまつりでの巡回活動

河北町青少年育成町民会議では、例年9月に「青少年のたまり場となりやすい場所等の巡回」を実施しています。

この活動は、谷地どんがまつりの開催期間、祭典会場周辺を中心に青少年の非行・被害防止のために行っているものです。巡回の結果、今年度も非行や被害等はありませんでした。これは、長年継続してきた活動の成果と思われまます。このほか各地区でも青少年の安全を守るための活動を実施しており、放課後の見守り巡回等も行っていきます。これらの活動を通して、参加した大人も地域に目を向けるいい機会になっています。

巡回活動のほかにも、「わたしの街の環境点検」などの調査も実施しています。新型コロナウイルス等の影響により、従来の活動を継続することが困難な状態が続いていますが、今後とも町民の皆様と協力しながら健全な青少年を育むよりよい地域環境づくりのため活動を継続してまいります。



西川町 西川町ボランティアサークル 「Color's(カラーズ)」

西川町のボランティアサークル「Color's(カラーズ)」は、中高生を中心に22名のメンバーが所属しています。平日も部活動や学校行事などが、休日も部活動や学校行事など、なかなかボランティア活動に参加するのが難しいような状況です。

そんな中、今年度はコロナ明けを感じさせるように各地区でイベントが開催され、入間地区では、町のママさんグループが主体となって、子どもから大人まで楽しめる「寺縁日」が開催されました。7月の忙しい中でしたが、「Color's(カラーズ)」メンバーもボランティアでそのイベントに参加しました。

参加したメンバーは、初めてのバルーンアートとくじ引きを任せられ、少し緊張していたようでしたが、子ども達と過ごすうちにいつの間にか人気者になりました。自身も縁日を楽しんでいるようでした。

地域の中で様々な人と関わることは新たな発見があり、普段とは違った体験をすることは新たな可能性を生みます。



今後もボランティア活動とおして、自身を成長させてほしいと思っております。

大石田町 大石田町青少年 健全育成町民集會を開催

令和5年12月16日(土)、町民交流センター「虹のプラザ」において、「大石田町青少年健全育成町民集會」を開催しました。町民総ぐるみによる青少年健全育成運動の輪を広げ、町民一人ひとりの意識向上を図る集會です。

集會は、アトラクションの大石田中学校1年生の総合的な学習成果発表「ふるさとに生きる」大石田の魅力発信！〜」でスタートしました。開会行事では、長年にわたり青少年健全育成活動に尽力された方に感謝状を贈呈しました。大石田中生徒会の発案で開催された子どもサミットでは、中学校生徒会と町内小学校3校の児童会により「大石田をよりよくするために自分たちができること」について話し合いもたれ、決議された「あいさつをよりよくしよう」への実践活動の様子や成果や課題の発表等を各学校生徒会・児童会より行っていました。

最後に、小中学生のいじめ防止標語の表彰、小学5年生を対象にした「家族の絆・感謝」をテーマとしたエッセイの表彰・発表を行いました。

小中学生達の学習成果発表、標語、エッセイ等の発表を通して、青少年の健やかな成長を見届けることができました。町民集會は、今後とも町民一人ひとりが青少年が人間性・社会性豊かな自己を確立していけるよう支援し、地域に根ざした活動に取り組んでまいります。



所感



天童市青少年育成推進員協議会

会長 新関 知己

天童市青少年育成推進員は、設置要綱に基づき、青少年の健全育成を推進することを目的に、市内13地域から規模により2人か3人が配置され、36人体制で活動を行っています。

他市町村でみられる、街頭指導的なことは他の団体が専門に行っており、当団体の活動としては、以前目的の中にある「青少年にとつて有害な環境の発見とその浄化に努めること。」とある様に、電信柱や電話ボックス内に、貼られている有害広告の除去や撤去を行ってきましたが、時代の流れとともに、そのアナログ的な広告自体が無に等しくなっておりあります。

そこで現在は、問題行動やいじめ防止等について活動の重点を置いています。最近のニュースでも、山形県内の小中学校で昨年度、心理的理由等で30日以上欠席した不登校の児童・生徒数は2,073人になったと言われており、過去最高となったと報じられていました。また、いじめの認知件数は、12,393件だそうです。前年に比べて減少したようですが、1,000人あたりの認知件数は、約118人で全国平均の2倍を超え、3年連続で、全国で最も多いとの事でした。天童市内では、学校で児童・生徒にアンケートを実施し、先生方が解決に向けて一つ一つ丁寧に対応を行っている聞いております。

そのようなことから、「天童市青少年健全育成市民集会」を開催し、中学校生徒の、いじめ撲滅についての取組を発表してもらい、活動を共有しております。

また、山形県民運動の一つとして募集しています。標語の中から、天童市で独自に選出して、当委員会予算で、独自に標語入りティッシュペーパーを作成し、市内で配布活動を実施しています。

これからも、いじめをゼロにするのは難しいと考えますが、少しでも減らしていくことを目指して、活動を推進していきます。

推進員部会研修報告

9月24日(日)、河北町総合交流センター「サハトベに花」を会場に、53名の参加者を得て推進員部会研修会を開催しました。開会行事では、伊藤康則会長に続き、開催地河北町の板坂憲助教育長よりご挨拶をいただきました。その後、今年度の新しい取り組みとして、「子どもたちの声を聴く」と題して河北中代表のお二人に「少年の主張」を発表してもらい、青少年の社会に対する考えや意見、未来への希望などの声を聴く絶好の機会となりました。

発表者は、河北中3年齋藤樹さん、演題「信じ続ける」と遠藤陽向さん、演題「仮面」です。特集として全文掲載していますので、是非お読みください。研修では、「地域の中でこども・若者に寄り添う」〜フリースペース「すいか」の取り組みから〜と題して、社会福祉法人さくらんぼ共生会 西村山地域基幹相談支援センター「かぼちゃ」の豊島陽子氏と峯田大義氏より、これまでの活動とまた新たな活動について講演をいただきました。

その後、3グループに分かれ、①「少年の主張」講演を聞いての感想、②各地区で推進員として活動していること、③推進員としての悩みや疑問についてグループ討議がなされ、特に、子どもたちの声を聴くことの大切さと自立に向けた支援、推進員としての役割と活動の活性化について短い時間の中で熱心に情報交換することができ、有意義な研修会となりました。



ふれあいトークかみのやま2023

11月20日、上山明新館高校を会場に、中学生・高校生と地域の大人との対話会「ふれあいトークかみのやま2023」が開催されました。上山市では、平成15年度より継続して開催し、今年度はバージョンアップした形の開催となりました。

テーマ、SNSでの被害・非行を考えるのもと、VTRを視聴しながら上山警察署員より話題提供があり、その後、中学生・高校生と地域の関係者が活発に意見を交わしました。中・高校生からはSNSによる誹謗中傷・仲間はずれ・いじめ・個人情報流出などのつらい経験談が語られ、また、喫緊の課題である出会い系サイトや闇バイトにも話が及ぶと危機感や恐ろしさすら感じ、出席者は自分事としてテーマに向き合うことができました。改めて、子どもたちと大人のコミュニケーションが有意義であると感じさせられました。



今後、各学校において、おたよりの発行や話し合い、専門家の講話や体験談等を通して、「トラブルが起きる前の広報啓発を大切にしよう!」と確認したところですので、便利なSNSを、みんなで賢く有意義に使いこなすことができるように、すべての家庭・学校・地域で積極的に啓発活動に取り組むことを願い、閉会しました。

令和5年度

山形県青少年育成県民会議受賞者

◆模範活動青少年団体

寒河江市高校生

ボランティアサークル「チェリーズ」

◆青少年育成成功労者

中川 ふき さん(寒河江市)

◆優秀標語作者表彰

太田 琴海 さん

(河北町立河北中学校3年)

